

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の再確認を行いながら、チームケアに取り組んでいる。	四項目に明文化されたホーム独自の理念が玄関と事務所に掲示されており、来訪者に分かり易くホームの方針を開示している。職員は出勤時に理念を復唱してから仕事についており、また理念を具体的に語ることができ熱心に取り組んでいる様子が窺えた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として催し物、行事には参加しているが、日常的な交流は十分とは言えない。	自治会費を納め地区の一員となっている。地域活動(草刈りなど)への参加の要請はないが参加について職員間で検討している。花火大会や文化祭など村や地区行事には積極的に参加している。演芸や落語、踊りや音楽などのボランティアの訪問以外に地域住民が大掃除の応援にも訪れている。村社協の依頼でヘルパー2級の実習生を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い、社会福祉協議会の協力も得ながら、グループホームの役割を発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見、要望を取り入れ、より地域に関わられたグループホームになるよう努めている。	今年度6月、9月と概ね3ヶ月毎に開催している。家族、役場職員、社協職員をメンバーにホームの活動や今後に向けての取り組みなどを報告し、参加者から要望や意見、助言を頂いている。地域住民は諸々の事情で参加が難しい状況である。次回開催予定は会議の中で伝えている。全家族に開催日を連絡し、参加を呼びかけている。	会議メンバーが出席できない場合には文書で議題に対しての意見、ホームへの要望、助言などを頂けるよう工夫し、徐々に開催回数を増やしていくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場・民生課や社会福祉協議会の人に運営推進会議のメンバーに入ってもらい、意見交換に努めている。	認定調査に役場から担当者が訪問している。現在入院中だが今月中旬に退院予定の入居者に関して医師から家族に変更申請必要との説明があり、入院中に担当者が見に来る予定である。村社協のケアマネジャーとは入居者のことや空き情報の問い合わせなどで関わることも多い。役場や社協の担当者との円滑な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし、身体拘束に関する勉強会を行い、理解を深めて取り組んでいる。	身体拘束や入居者の行動制限に関する具体的な行為を職員は理解しており入居者が自由に気持ちよく過ごせるように身体拘束をしないケアに取り組んでいる。外出傾向の入居者には職員が様子を見ながら一緒に歩き、本人が満足出来るケアに努めている。ベッド柵使用について家族に説明し了承の上、現在、夜間とお昼寝の時間に限り行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだことを全員に知らしめ、防止に努めている。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不十分である。制度を理解し、活用できるようにするためにも、積極的に研修会に参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たっては、面談を重ね要望や不安な点を伺い、十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や相談窓口を設け、随時対応できるようにしているが、直接家族から、要望されることの方が多く、個々に対応している。	家族等からの意見や要望等は施設長が窓口となっている。それらは検討されて運営に反映されている。家族から直接頂いた相談や依頼等は個別にファイルし対応の仕方を記録に残している。ホーム便り「大地通信」を毎月発行し、ホームでの様子を写真で紹介し、個別の暮らし振りや健康状態などを「近況報告コーナー」に書き込み、家族に送っている。家族からはこまめに知らせてくれるのでありがたいと喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	提案箱を設け、月1回の施設長会議で討論し、反映できるようにしている。	提案箱は毎月本部に集められ開封後施設長会議で検討している。施設長は個別に5～6分職員と面接し、意見や要望を聞き、職員会議で議題として提起することもある。毎月一回、職員会議を夕方から1～2時間かけて行い、入居者の状況や運営に関することなどを話し合っている。職員は活発に意見や提言をしており、運営に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議に参加したり、契約更新時に要望・意見を聞き、職場環境の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画に基き、全員が研修に参加できるよう、シフトを組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に会員として、交流会・研修会・意見交換会に参加し、サービスの向上に努めている。又、近隣のグループホームの集いに参加し、問題点や悩みなど話し合う場を作っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員会議で話し合い、利用者さんの生活歴・習慣等を考慮しながら、チームケアに取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に当たっては納得して頂けるまで話し合いを重ね、信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴・習慣をふまえ、どのように暮らしていきたいか、そのために必要な支援は何か考え、インフォーマルなサービスも含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゆっくり・のんびり・一緒にをモットーに利用者さんのペースに合わせて、畑作り・食事作りを協力しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方には、利用者さんの心理面を支えてもらえるよう、面会や外出などに協力してもらい、職員は日頃の様子を伝え、家族が戸惑わないよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方々と接点を持てるよう、外出の機会を増やしたり、地域の行事に積極的に参加できるよう努めている。	村の文化祭には入居者の作品を出品している。文化祭やスーパー、医院に出かけると毎回馴染みの住民と顔を合わせることが多いので出来るだけ外出の機会を設けている。村から給付される割引券を利用して訪問理美容や美容院で馴染みのスタイルの髪形にしてもらっている。入居後も地域に暮らす人達との交流が継続できるように情報を集めながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性を尊重しながら、気の合う仲間作りができるよう、工夫・配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も面会にいて、様子を伺っている。 退所後1年後に亡くなられた時は家族から連絡があり、葬儀に参列するなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望・希望を受容し、表現が困難な方には多様な声掛けをして、要望を引き出せるよう工夫している。	日々、入居者とかかわりながら職員は一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。表出が難しい入居者もいるが表情や仕草などから嫌なこと、好きなことなど本人の気持ちを受け止めている。分かり易い言葉で話したり、耳元で話すなど一人ひとりに合った声かけを工夫し要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族からの情報、前施設からの情報をもとに、その人にあったケアを見だし、実践できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムをアセスメントを通して把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月をめぐりに、モニタリング・アセスメントを行い、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族の生活に関する意向を基にホームで本人らしく暮せるための介護計画を作成している。担当者会議も開かれており、定期的に評価見直しを行っている。意向や状態などが変われば直ちに見直し、新たな介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の話したこと、行動を記録に残し、職員間で話し合いながらケアの実践、介護計画に結びつくよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・医療・ボランティアの人たちとの協力を得ながら、そのときのニーズに対して		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	広報などを利用し、催し物や行事に参加できるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	指定協力医院として契約を結び、受診・往診・休日の対応ができるよう支援している。 本人・家族の希望により、これ以外の医療機関も受診できるよう対応している。	通院や受診は家族にお願いしているが付き添えない場合や緊急時は職員が代行している。その場合には受診後の状況を電話で報告している。協力医院（入院設備あり）が入居者の状況により随時往診してくれる。同医院の看護師が月2回訪問し、入居者の健康状態確認や職員の相談にものっている。入居者に変化があれば医師と速やかに連携し対処している。協力歯科医院による往診もあり随時治療している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、指定協力医の看護師さんが月2回訪問し、相談・協力してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入・退所時には、医師やケースワーカーと連絡を密にし、特に退院後の生活、医療上の留意点など相談できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は終末期ケアの方針について、明文化したものはないが、支援できる方向で検討している。	契約時には重度化や終末期についてのホームの現状を本人や家族に説明している。開所以来看取り支援は行なわれていない。現在の入居者の平均年齢は88歳、平均介護度は3.3であり共に高くなっている。万が一の対応については救命救急講座を受けているものの現実味を帯びてきているので今後に向けて全職員で検討しようとしている。	法人でも今後、看取り対応を検討する方向である。当ホームでも重度化や終末期に向けた方針を立て、職員研修を進めていかれることを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回救命救急講座を受講している。又避難訓練を日中と夜間帯に分けて、行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は日中と夜間にわけて行い、職員は持ち場、役割分担を決めている。	消防署の指導の下、昼間想定避難訓練、通報訓練、消火器の取り扱いなどの訓練を行っている。入居者も職員の誘導を受けながら避難訓練に参加している。予告なしに夜20時、緊急連絡網を使い職員の到着時間を測定する夜間訓練を独自に行っている。スプリンクラー、自動火災報知機、非常用照明など防災設備などが整えられている。介護用品、水、食料品なども備蓄している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の個性、人格を尊重し、接する態度・言葉使いに留意しながら対応できるよう、心掛けている。	人生の先輩として敬う気持ちを持ち、一人ひとりに合わせた声かけや対応を行っている。全職員が「大地」の職員として誇りを持ち、プロとして入居者が本人らしく生き生きと暮し続けられるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に待つ姿勢で接するよう心掛け、職員の思い込みや、せかす言葉使いはしないよう留意し、本人の意思決定を促すよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のその日の気分や体調を考慮しつつ、外食や買い物など希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる人は好みで選んでいただいている。なかなか選べない人には、職員の判断で行っているのが現状です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえは、声かけて一緒に 行っている。食器洗いは進んで行ってくれる利用者さんもいて交代でお願いしている。	食事の準備や後片付けをそれぞれの入居者の力量に応じて職員と一緒に 行っている。今年度からは夕食のみ配食サービスを利用し、朝食、昼食を入居者と一緒に作っている。入居者の状態に合わせたキザミやトロミ、治療食等の提供も可能である。「自分でつくったお稲荷さんのお味はどうですか」と職員の問いかけに「おいしいです」と口いっぱい にほうばった入居者が応えていた。また、「もっと食べたら」と勧める入居者にお腹を見せる実習生の姿もあり、微笑ましく楽しい食事の光景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの取れた食事ができるよう一週間単位で献立を立てている。一日あたりの水分量を記録し、好みの物が摂れるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員が毎食後に口腔ケアをしているわけではないが、できるだけ自分で行えるよう支援している。		

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツ着用を基本とし、本人の排泄感覚が鈍らないよう努めている。排泄表を使って記録に残し、時間を見計らってトイレ誘導している。	布パンツを基本とし、排泄の自立に向けた支援が行なわれている。夜間のみポータブルトイレを使用している方もいる。尿意が曖昧で夜間のみ大きなパットを使用している方には時間で交換し日中はトイレでの排泄も試みている。入居者の排泄リズムなどに合わせた支援を行っているが除々に機能低下も進み失敗や誘導時間が間に合わない場合も増えてきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をとり、一人一人のリズムを把握しながら、飲食物の工夫をしながら薬の服用も併せて行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前・午後問わず、好きな時入浴できるよう心掛けている。夕食後は、職員の配置の関係で希望に添えない。	お風呂はほぼ毎日準備し、いつでも希望の時間に入浴できるように配慮している。本人の身体状況により二人介助の必要な場合もある。のんびりと気持ちよく入浴してもらうために本人のペースで入浴してもらっている。殆どの入居者が一日おきに入浴している。拒む入居者には家族の協力をお願いしている。入浴剤入りお風呂もとても喜ばれている。近くの温泉地へ足湯に出かけ楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースに合わせて、ご自分の居室やソファなど、好きな場所、好きな時間に休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方される薬について理解しており、症状変化については、速やかに主治医に相談し、その指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や縫い物などに参加してもらい、役割を持った生活が出来るよう支援している。歌が好きな人が多く、皆でよく歌っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は近所のお寺や公園に出掛けることが多い。季節の花を見に行くときは車で出掛けている。天気のいい日は中庭の芝生で外気浴も楽しんでいる。	天気の良い日にはホーム周辺や近くの公園を散歩している。車椅子の入居者も三分の一ほどいるが皆と一緒に掛け気分転換をしている。ホーム周辺には桜、ハナモモ、ツツジ、アジサイなど数多くの名所があり、ドライブがてら毎年出かけている。日常の散歩よりもドライブを兼ねての買い物や名所巡りのほうが多い月もある。	

グループホーム大地

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金の管理をしている人は一人のみで、一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	親戚、知人などから贈り物があつた時は、出来る限りご本人が電話などで話ができるよう配慮している。電話の使用は自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材をふんだんに使った心地よい館内には、季節の草花が飾られ、台所からは包丁を使う音が聞かれる雰囲気がある。	建物の中央にあるリビング、食堂、キッチンが広々としたワンフロアとなっている。天井には11月14日に行う運動会の優勝カップや万国旗ならぬ似顔絵や秋の果物、ウサギや亀など描かれた旗が下がっている。広いウッドデッキには立冬なのに暖かい陽差しが溢れ、ホールからも紅葉した木々が見えた。入居者はおしゃべりをしたり料理の手伝いをしたりと日中の多くの時間をこの場所でのんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの角にはソファや畳ベンチがあり、思い思いの場所で寛げるよう工夫されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた馴染みの家具や家族の写真などを飾り、落ち着いて過ごせるようにしている。	居室の壁のボードには誕生カードや家族とのスナップ写真、手作りのメダルなどが所狭しと貼られている。ご主人の位牌がある居室、テレビが持ち込まれている居室、床に滑り止めマットが敷かれた居室と、どの居室もそこに暮らす本人のために工夫された空間となっていた。入口には緊急時に使うネームプレートが折り紙袋に収められていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーの中、各部屋に目印をつけ、トイレ・風呂場など解かり易いように表示している。		